

# 取扱説明書

## バルク貯槽用マルチバルブ (横取り付けタイプ)

CMB-32S



株式会社 宮入バルブ製作所  
MIYAIRI VALVE MFG. CO., LTD.

## はじめに

この度は、バルク貯槽用マルチバルブCMB-32Sをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。  
本書は、バルク貯槽用マルチバルブCMB-32Sの取り扱いについて説明いたします。

本製品を正しくお使いいただけるよう、ご使用前に必ず本書をお読み下さるようお願い申し上げます。

## お願い

- LPガス設備の安全確保に万全を期すため、工事を始める前に本書を必ずお読み下さい。
- 本書はお読みになった後も大切に保管して下さい。
- 本書は改良のため予告無く内容を変更する場合があります。予めご了承下さい。
- 間違った使い方をされますと、故障や事故の原因となることがあります。十分にご注意ください。
- 高圧ガス関連法規・基準、及び省令補完基準に関する法律等に定められた基準を厳守して下さい。
- 設備工事に際しては、関連法規に定める資格者が実施してください。
- 本製品の採用をご検討の際は、通常予測される故障を考慮して、貴社製品・設備の安全設計を行って下さい。
- 当社の定めた使用、保管等に関する諸条件を厳守して下さい。
- 本製品の欠陥が、生命や身体への危害や物的損害を発生させる恐れのある強い製品（原子力制御、鉄道、航空、車両、燃焼装置、医療機器、娯楽機械、安全機器等）等、特に安全性が要求される用途への使用をご検討の場合は、定格・性能等に対して余裕を持った使い方やフェールセイフ等の安全対策へのご配慮をお願いいたします。
- 万一、本製品の不具合に起因して貴社製品が事故を起こしたときは、当社営業担当者まで直ちにご連絡下さい。
- 本製品を安全にご使用いただくために、厳格に守っていただきたい事項を記載している箇所には、下記のようなシンボルマークをつけてありますので、特に注意してお読みください。

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。

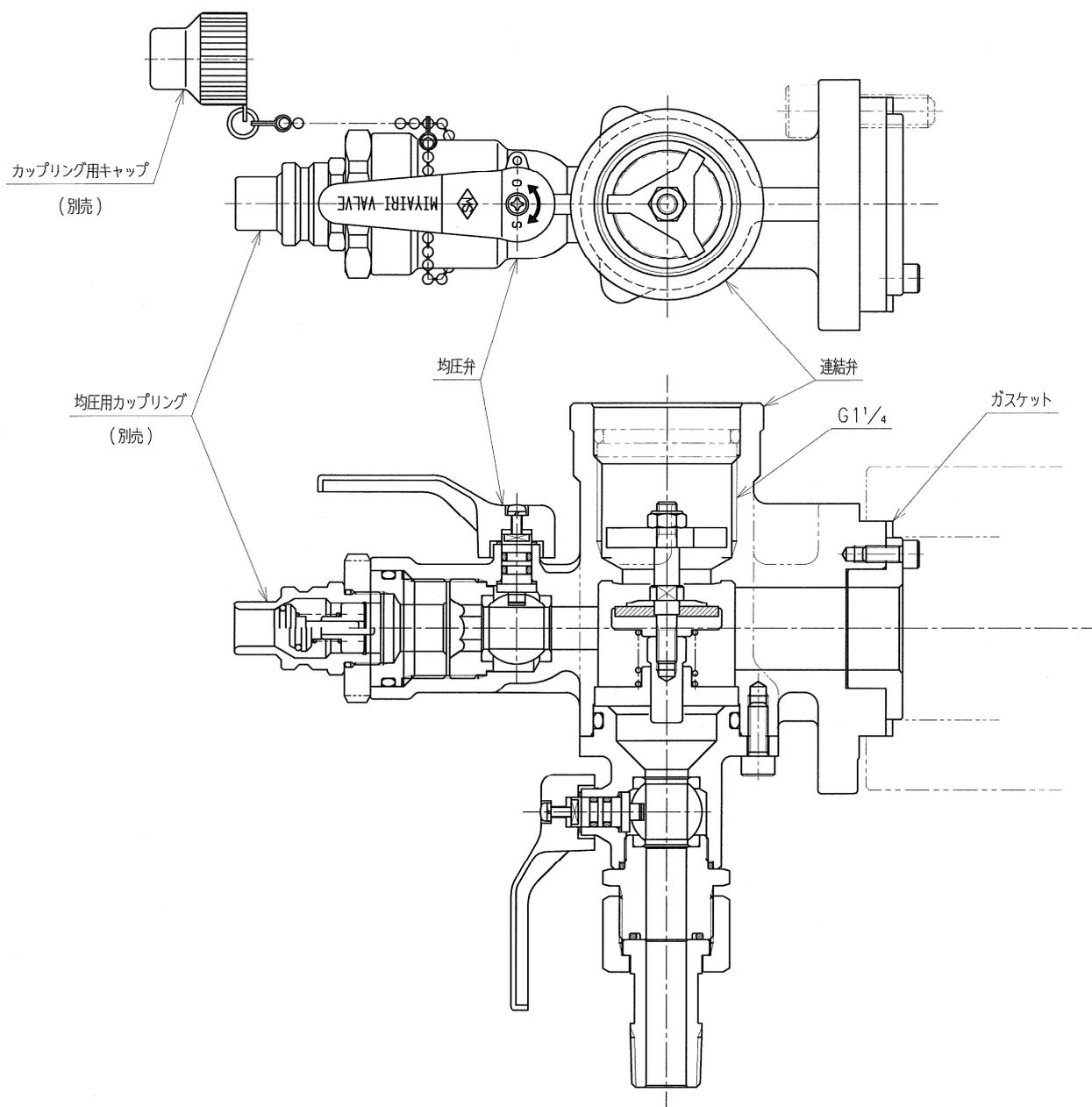
## 目次

はじめに.....	1
目次.....	2
<b>1 構造.....</b>	<b>3</b>
1.1 概要.....	3
1.2 機能および仕様.....	4
<b>2 取付及び操作方法.....</b>	<b>5</b>
2.1 取付.....	5
2.2 操作方法.....	6
<b>3 交換方法.....</b>	<b>8</b>
<b>4 保守・点検.....</b>	<b>9</b>

# 1 構造

## 1.1 概要

本マルチバルブは連結弁、ガス取出弁、均圧弁及び均圧用カップリングで構成されております。



## 1.2 機能および仕様

### 1.2.1 製品仕様

設計圧力		1.8MPa
設計温度		-10~70℃
耐圧試験圧力		2.7MPa
気密試験圧力		1.8MPa
本体材質		黄銅鍛造
連結弁	開閉操作	安全弁の脱着にて自動で開閉
	接続	G 1 1/4
ガス取出弁	開閉操作	ハンドルを90°回転(右回り閉)
	接続	R 1/2
均圧弁	開閉操作	ハンドルを90°回転(右回り閉)
均圧用カップリング*1	開閉操作	メスカップリングの開閉操作により開閉

※1 安全弁及び均圧用カップリングは別売りです。

### 1.2.2 個別機能

#### ① 連結弁

安全弁を取り付けるための元弁です。安全弁の取り付け、取り外しにより、自動的に弁が開閉しますので、安全弁の点検・交換を容易に行うことができます。

#### ② ガス取出弁

LPガスの供給をガスラインで行うためのバルブです。

#### ③ 均圧弁

均圧用オスカップリングの元弁です。

#### ④ 均圧用カップリング

充てん時にタンクローリ車からの均圧ラインの先にあるメスカップリングを接続します。

## 2 取付及び操作方法

### 2.1 取付

本マルチバルブを貯槽に設置する際には、以下の手順に従って取り付けてください。

- ① 本品を貯槽に取り付ける前に、外観等に異常のないことを確認して下さい。
- ② 貯槽の取付フランジに、グリースを塗付したガスケット(ノンアスジョイントシート)を装着します。

 <b>注意</b>	ガスケットは必ず新品の純正のものを使用し、LPガス用のシール剤を塗布してください。
---	---

- ③ 本体部分を取付フランジに設置します。この時、フランジが曲がって設置されていないこと、連結弁が上を向いていることを確認して下さい。
- ④ 取付ボルト4本(M10)を使い、しっかりと貯槽に固定してください。  
このとき、カタ締め等のないようしっかりと締め付けてください。  
※ 推奨締め付けトルク : 23N・m  
※ ガスケットが圧壊する恐れがありますので、40N・m 以上締め付けしないでください。

## 2.2 操作方法

### ① 連結弁

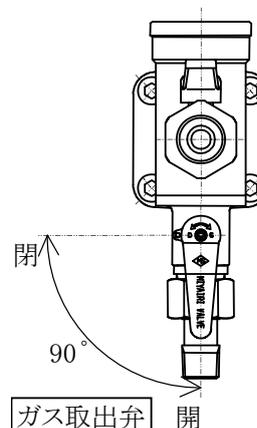
- (1) 安全弁の取り付け、取り外しにより作動しますので、通常、特に操作の必要はありません。

※ 安全弁の取り外しについては、交換要領書(HM-3040, HM-3047)をご覧ください。

 <b>注意</b>	安全弁を取り外す際は、LPGが瞬間的に放出され、凍傷などを起こす危険性がありますので手袋等を着用してください。
 <b>注意</b>	連結弁から安全弁を取り外す際は、安全弁を徐々にゆるめてください。一気にはずすと、ガス圧により安全弁が飛び出す場合があります。

### ② ガス取出弁

- (1) 使用時は全開にしておきます。

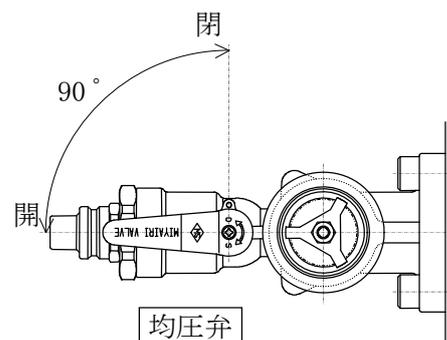


 <b>注意</b>	ハンドルレバーの操作は必ず全開、全閉で使用して下さい。中間開度で使用すると、シートパッキンの変形等により弁漏れの原因となります。
 <b>注意</b>	出口側ユニオン継手に曲げ荷重がかからないように供給配管をして下さい。ガス漏れ、破損等の原因となります。

### ③ 均圧弁

#### 〔操作方法〕

- (1) 充填開始時は均圧弁が閉であることを確認して下さい。
- (2) カップリングのキャップをはずし、メスカップリングを結合します。
- (3) 均圧弁を開き、均圧をとって下さい。
- (4) 結合部に漏れがないことを確認して下さい。
- (5) 充てん後は均圧弁を閉じ、メスカップリングを分離後、キャップを取り付けて下さい。



#### 〔使用上の注意〕

 <b>注意</b>	メスカップリングのスリーブが動いて「カチン」と音がするまで押し込み、確実に結合して下さい。
 <b>注意</b>	充てん時は均圧弁のハンドルが全開であることを確認して下さい。
 <b>注意</b>	充てん後、均圧弁のハンドルが全閉であることを確認して下さい。
 <b>注意</b>	カップリング保護キャップが確実に取り付けられていることを確認して下さい。

## 3 交換方法

点検等でマルチバルブの交換の必要が生じた場合には、以下の手順で交換を行ってください。

- ① 貯槽内に LP ガスが残っていないことを確認してください。

 <b>警告</b>	LPガスが貯槽内に残っている状態でマルチバルブを取り出すのは大変危険です。貯槽内にLPガスが入っていないことを確実に確認してください。
---	---

- ② 取付ボルト4本を緩めてください。
- ③ マルチバルブを取り付けフランジから外して下さい。
- ④ 新しいマルチバルブにシール剤を塗付したガスケット(ノンアスジョイントシート)を装着します。

 <b>注意</b>	マルチバルブを貯槽から取り外した際は、必ずガスケットを新品のものと交換し、LPガス用のシール剤を塗布してください。
---	---

- ⑤ 本体部分を取付フランジに設置します。この時、フランジが曲がって設置されていないこと、連結弁が上を向いていることを確認して下さい。
- ⑥ 取付ボルト4本(M10)を使い、しっかりと貯槽に固定してください。
  - ※ 推奨締め付けトルク : 23N・m
  - ※ ガスケットが圧壊する恐れがありますので、40N・m 以上締め付けないでください。

## 4 保守・点検

### 〔取り付け前の保管について〕

本製品を貯槽に取り付ける前に長期間保管する場合は、梱包を解かずに高温多湿の場所を避けて保管してください。

### 〔設置後の点検について〕

充てんの際、定期的に外観の異常、ガス漏れ等のないことを確認してください。  
法定に定められた定期的な点検を行ってください。

☆ 本製品についてのご質問、及び定期点検のご相談、ご依頼は下記の営業所までご連絡ください。



本 社	〒104-0061	東京都中央区銀座西 1-2	(TEL) 03-3535-5575	(Fax) 03-3567-6834
甲 府 工 場	〒400-0206	山梨県南アルプス市六科 1588	(TEL) 055-285-0111	(Fax) 055-285-7175
札幌営業所	(TEL) 011-786-1110	(Fax) 011-786-1120	名古屋営業所	(TEL) 052-951-3860 (Fax) 052-951-3862
仙台営業所	(TEL) 022-295-4670	(Fax) 022-295-4671	大阪営業所	(TEL) 06-6541-8711 (Fax) 06-6541-8718
東京営業所	(TEL) 03-3535-5571	(Fax) 03-3567-6834	九州営業所	(TEL) 093-921-0981 (Fax) 093-921-0984